

事業実績報告書

**様式2
(2023年度)**

講座番号	B-69	講座名	社会インフラと生活環境の調和
記載日	2024/4/10	団体名・企業名	CE技術の会
〈講座全体の概要〉(300字程度)			
<p>人々の生活を豊かにする河川、道路、公園・緑地等の「社会インフラ」が生活環境に及ぼす影響に焦点を当てた講座としました。1回目は、名古屋の運河の一つで悪臭が問題となっている新堀川で行われた高濃度酸素水による水質浄化実験を紹介すると共に、名古屋市の河川水質浄化方針を解説し、水質浄化実験から身近な河川環境を考えました。2回目は人々の憩いの場である公園・緑地等オープンスペースの持続可能な維持管理を考えました。3回目は橋梁計画での環境負荷低減を図る鋼橋の急速施工技術等について考えました。</p>			
2023.11.29大須コミュニティセンターで 第1回目、大同大学 大東 憲二特任教授が配布資料で新堀川で実施された水質浄化実験を解説。	2024.1.24大須コミュニティセンターで 第2回目、愛知工業大学 川口 暢子准教授がパワポで公園緑地等の効用と持続可能な維持管理を解説。		
〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)			
<p>社会インフラと生活環境との調和をテーマに人々の生活を豊かにする河川、道路、公園・緑地等の「社会インフラ」が生活環境に及ぼす影響に焦点を当てた講座として開催しました。各講師が実際に携わった事例紹介により、社会インフラが関係する地域の環境問題がより身近な問題となりました。国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の17の目標の中でもSDGs9：「産業と技術革新の基盤をつくろう」は経済成長と人々の健康で安全な暮らしの両方を実現するため、社会の基盤となるインフラを持続可能で、災害に強く、環境破壊をもたらさないものにするための目標で、今回の3回の講座はまさにぴったりの内容であったと感じました。講義終了後の参加者と講師との間では活発な質疑応答が行われ、社会インフラと生活環境の関連性の重要性を実感しました。</p>			
〈受講者の声(実感した反応及びアカートより)〉(3~5点、計350字程度)			
<p>受講者の声を以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇大東講師の新堀川の浄化実験の講座では明治43年に通水した運河の歴史や近代化での役割、それに伴う水質悪化の現状と対策状況が良く分かった。 ◇川口講師の講座では、長野市の苦情がきっかけで公園が廃止となった例なども挙げられ、公園などのオープンスペースの都市住民への効果が大きいが一部問題点もあることが理解できた。 ◇川口講師の久屋大通り公園のPark-PFIでの再整備など公園を多目的に活用する可能性を感じた。 ◇廣村講師の鋼橋の架設動画を何篇か見させてもらい、橋梁の施工技術はすごいと思いました。 			